広島県の地震

２０２５（令和７）年７月

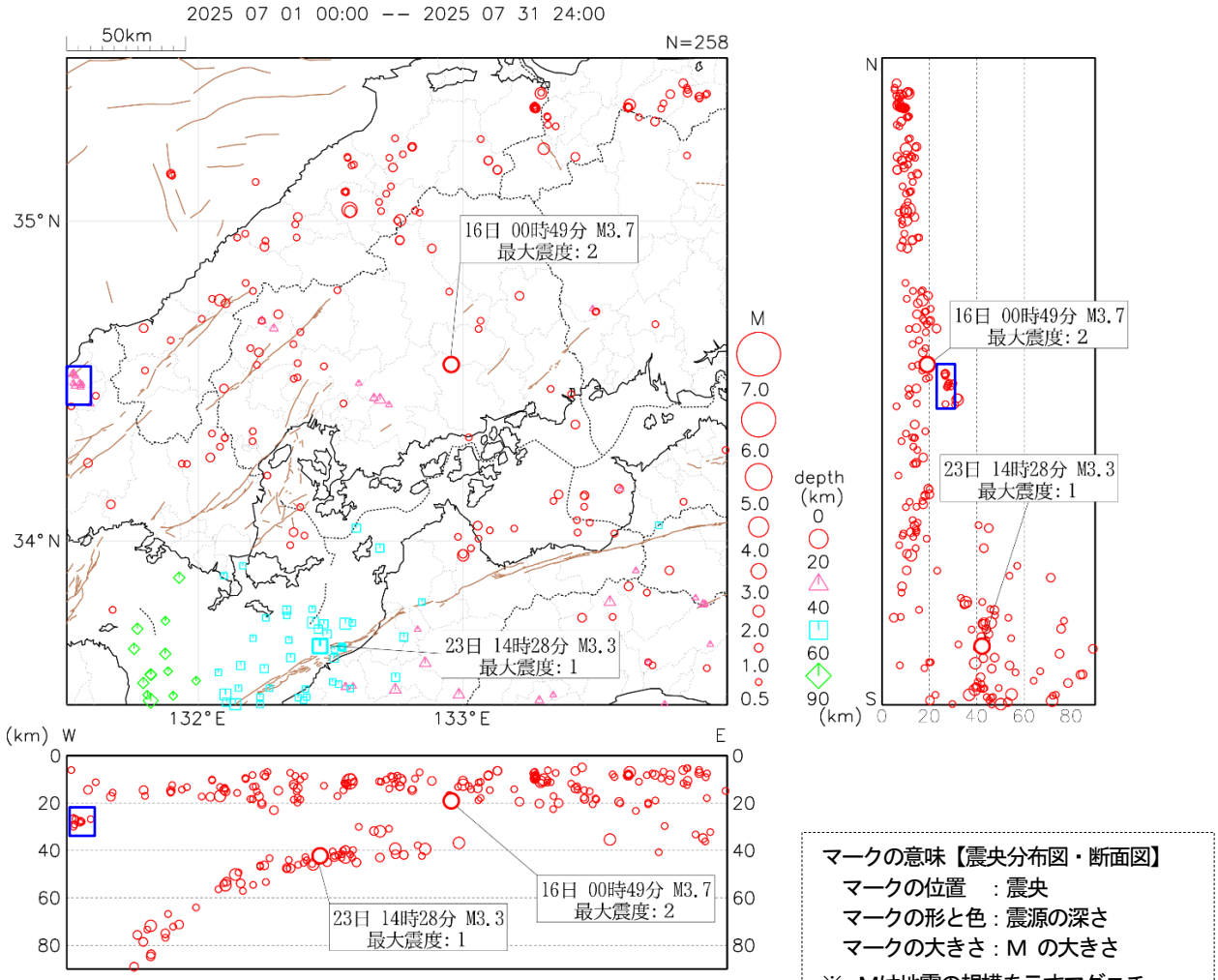
目　次

広島県及びその周辺の地震活動・・・・・・・・・・・・・・・・１
震央分布図・断面図と地震概況
広島県における震度１以上の地震・・・・・・・・・・・・・・２
震度一覧表と震度分布図
地震メモ　第 248 回・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
８月 26 日は「火山防災の日」

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】　　2025 年 7 月 1 日～7 月 31 日



左上：震央分布図　右上：南北断面図　左下：東西断面図

※　震央分布図とは、震源直上の地表面での位置を表示した図です（震源とは地球内部で岩石破壊が始まった地点で、一般的には深さがあります）。

※　図中の茶線は地震調査研究推進本部 による活断層を表しています。

※　図の右上の”N”は図の範囲内における地震の回数です。

マークの意味【震央分布図・断面図】
マークの位置　：震央
マークの形と色：震源の深さ
マークの大きさ：M の大きさ

※　Mは地震の規模を示すマグニチュードの略です。

凡例（depth）【震央分布図】
○ は深さ 0～20 km未満
△ は深さ 20～40 km未満
□ は深さ 40～60 km未満
◇ は深さ 60～90 km未満

【地震概況】

この期間、広島県内で震度１以上を観測した地震は２回でした（先月は３回）。

16 日 00 時 49 分 広島県南東部の地震（深さ 19km、M3.7）により、広島県安芸高田市・北広島町・世羅町・東広島市で震度２を観測したほか、島根県、広島県、愛媛県で震度１を観測しました。

23 日 14 時 28 分 伊予灘の地震（深さ 42km、M3.3）により、広島県呉市、愛媛県西条市・松山市・伊予市・久万高原町・八幡浜市・大洲市・内子町で震度１を観測しました。

なお、山口県北部の深さ 25km から 30km 程度（震央分布図・断面図青枠内）では、2025年２月から微小な地震活動が見られるようになり、３月上旬頃から地震回数が増加しました。６月以降、地震回数は減少してきているものの、現在も地震活動は継続しています。地震活動の詳細については、気象庁 HP「令和７年７月の地震活動及び火山活動について」及び地震調査研究推進本部 HP「2025 年７月の地震活動の評価」を参照願います。

・気象庁　https://www.jma.go.jp/jma/press/2508/08e/2507kinki-chu-shikoku.pdf

・地震調査研究推進本部　https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2025/2025_07.pdf

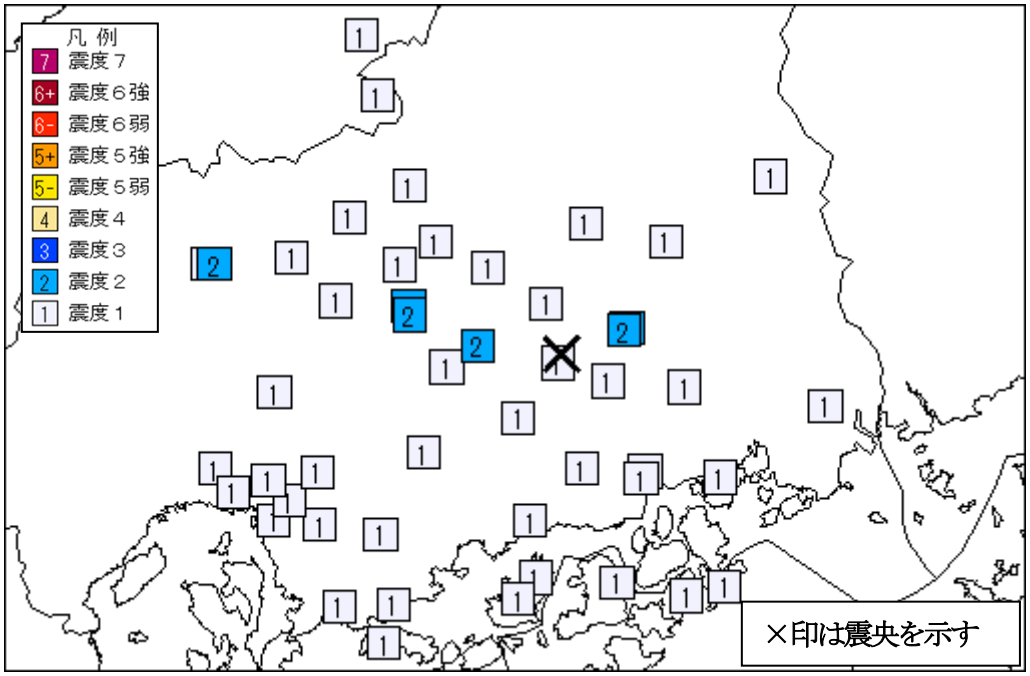
広島県における震度１以上の地震

【震度一覧表】

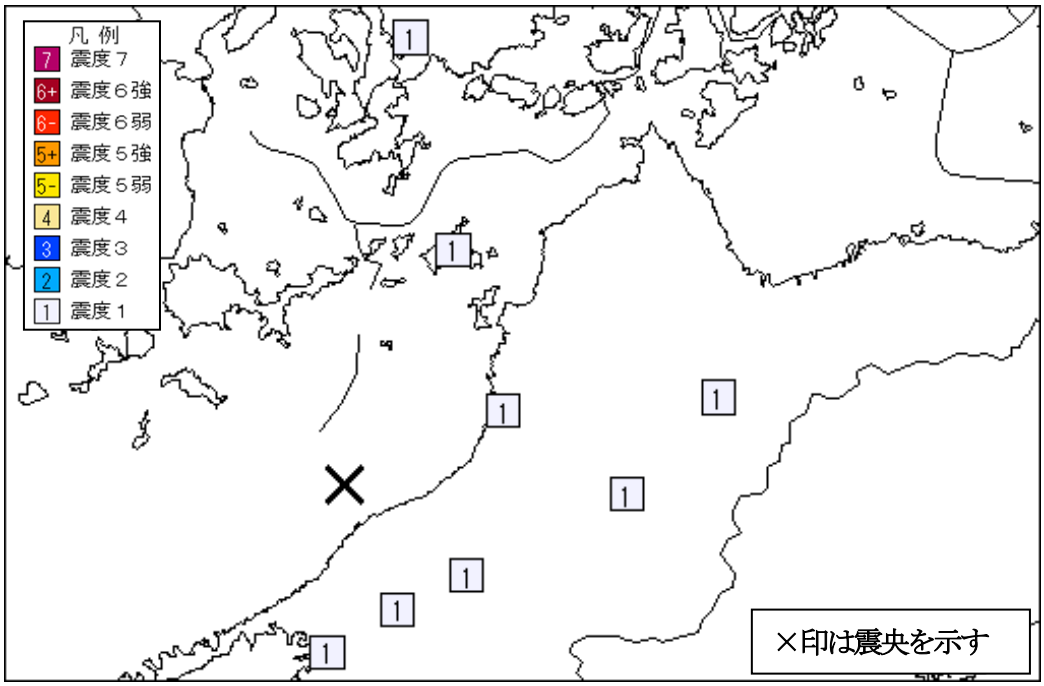
発震時刻（年月日時分）　震央地名 広島県内の各地の震度	緯度	経度	深さ	M ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2025年07月16日00時49分　広島県南東部	34° 33.1’ N	132° 57.3’ E	19km	M3.7
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 2：安芸高田市向原町長田＊, 安芸高田市向原町＊, 北広島町都志見, 世羅町東神崎＊ 世羅町西上原＊, 東広島市豊栄町＊				
震度 1：広島三次市三和町＊, 広島三次市吉舎町＊, 安芸高田市八千代町＊ 安芸高田市高宮町＊, 安芸高田市吉田町＊, 安芸高田市美土里町＊ 安芸高田市甲田町＊, 北広島町有田, 北広島町豊平郵便局＊, 三原市円一町 三原市館町＊, 三原市大和町＊, 三原市久井町＊, 三原市本郷南＊, 尾道市向島町＊ 尾道市御調町＊, 福山市東桜町＊, 広島府中市上下町上下＊, 世羅町小国＊ 神石高原町油木＊, 広島中区羽衣町＊, 広島西区己斐＊, 広島安佐北区可部南＊ 広島安芸区中野＊, 呉市広＊, 呉市下蒲刈町＊, 呉市川尻町＊, 東広島市黒瀬町 東広島市西条栄町＊, 東広島市福富町＊, 東広島市河内町＊, 府中町大通り＊ 海田町役場＊, 熊野町役場＊, 坂町役場＊, 竹原市中央＊, 大崎上島町中野＊ 大崎上島町東野＊				
2025年07月23日14時28分　伊予灘	33° 40.1’ N	132° 27.5’ E	42km	M3.3
―――――― 地点震度 ――――――				
広島県　震度 1：呉市二河町＊				

注）震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

【震度分布図】



2025 年 07 月 16 日 00 時 49 分　広島県南東部の地震の観測点震度分布図



2025 年 07 月 23 日 14 時 28 分　伊予灘の地震の観測点震度分布図

地震メモ　8月26日は「火山防災の日」　第248回

８月 26 日は「火山防災の日」です。「火山防災の日」をきっかけに、火山の魅力・恩恵やその危険性を正しく理解し、火山災害に備えましょう。

○火山防災の日

活動火山対策の更なる強化を図り、住民、登山者等の生命及び身体の安全を確保することを目的とし、令和５年６月に活動火山対策特別措置法が改正され、８月 26 日を「火山防災の日」に制定しました。８月 26 日を「火山防災の日」とした理由は、明治 44 年８月 26 日に、浅間山に日本で最初の火山観測所が設置され、器械を用いた近代的な観測が始まったことに由来しています。

○火山災害

火山災害の要因となる主な火山現象には、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流、溶岩流、小さな噴石や火山灰、火山ガス等があります。また、火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。特に、火山噴火に伴い発生する大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が高いため、防災対策上重要度の高い火山現象として位置付けられています。

気象庁ホームページ：Yahoo!ニュース制作図解
(商用利用不可・図解を分割編集しての使用不可)

○火山災害から身を守る

火山災害から身を守るためには、普段からの備えや事前の速やかな避難が重要です。火山に登る際には、事前に次の確認をお願いします。

- ●各市町村で作成している「火山防災マップ」による「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所の確認。
- ●避難場所や避難場所までの道順の確認。
- ●気象庁が発表する「噴火警報」などの情報の入手方法の確認。

また、噴火のおそれがある場合には、危険な地域では事前の避難が必要です。地元の市町村の指示があった場合にはそれに従いましょう。

○気象庁ホームページ「火山防災の日」特設サイト

上記内容や気象庁の火山業務（火山観測・監視、火山に関する情報発表等）、日本の活火山（中国地方の活火山：三瓶山、阿武火山群）等の詳細については、「火山防災の日」特設サイト（以下アドレス）をご覧願います。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/kazanbosai/index.html

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先
〒730－0012
広島市中区上八丁堀 6－30 広島合同庁舎 4 号館 14 階
広島地方気象台 防災管理官室　　TEL：082－223－3965